



Safety and Health

安全と健康

No.246

今月のおススメ改善事例

●東京労働安全衛生学校で
見学を受け入れていただいた
(株)スガワラの改善事例

プレス機で非常に小さな製品を加工しています。

改善点は

- ①両手スイッチ
- ②手引きの安全装置 (手に紐が結ばれており、プレス機の作動時に作業点近くに手があると引かれる。)
- ③エアにより加工後の製品を前方の製品受けに吹き飛ばす
- ④作業点の周囲に布を置き、製品が落ちても機械の中に入るのを防いでいる。布の実物はオレンジ色で作業者が作業点に集中できる



特定非営利活動法人

東京労働安全衛生センター機関紙

(頒 価) 200円

- 労災保険の民営化を許さない!!…2
- 2003秋のベトナム訪問記…3
- トピック・練馬・学校のアスベスト…8
- センター活動
第11回東京労働安全衛生学校…13
- 地域から相談から
倒産後の会社整理作業で骨折…14
- リレーエッセイ 邂逅…15
- 中皮腫・じん肺・アスベストセンター設立…16

発行人:平野敏夫

住 所 : 〒136-0071 東京都江東区亀戸 7-10-1 Zビル5F

Tel (03)-3683-9765 Fax (03)-3683-9766

E-mail etoshc@jca.apc.org

Homepage URL <http://www.jca.apc.org/etoshc/>

振 替 : 【郵便】00160-8-183157

【中央労金亀戸支店】284-1612779

発行日:2003年11月28日



地域から・相談から

●倒産後の整理作業中に材木の下敷きに 左距骨脱臼骨折を江戸川署が業務上決定

Kさんは、昭和9年生まれの70才。17歳頃から大工の仕事一筋にやってきた。江戸川区のS社にかかわったのは5、6年前。それまでは横浜に所在する工務店で仕事をしていた。一緒に仕事していた友人と組んで自分もS社の仕事をもらうようになった。S社での仕事は主にビルの内装・間仕切りなどだった。当初は友人の名前を使った請負形式で仕事を受けていた。

2002年4月、妻がくも膜下出血を発症した。S社が倒産したことを聞いたのはその前後だったという。5月に入り病後の妻の介護をするKさんに、友人を通じてS社から『工場を整理・処分するので作業の手伝いをしてほしい』との話がかかった。勤務の日数や時間を考慮してもらえるとの条件に惹かれ、Kさんは仕事を始めることにした。

5月からの賃金は、日当12500円とされた。(その後この日当は12000円に下げられた)。仕事は、江戸川区船堀の会社敷地内の整理だった。主な作業者はKさんの他にも2名いた。また、Kさんは敷地整理の作業以外にも「S社の職人」として外部の内装の仕事に出向くこともしばしばだった。30日締めめの15日支払いの給与も、友人を通じての手渡し現金だったが、日当計算でS社から支払われたものであった。

その年の9月23日は祝日で、会社跡地の残務処理最後の日だった。朝8時には会社に到着。作業は工場に残っているベニヤなど残材の搬出だった。専務、職人仲間2名とKさんの4名が作業にあたった。8時半、トラックが到着したので皆で乗せられるだけの材木を積み込み、一回目の搬出に

出発。Kさんたちは若干の休憩をとった後、トラックが戻ってくるまで二回目が積みやすいように材木を工場の外に運び出す作業を始めた。

災害発生は午前11時頃。作業中、重ねて立てかけてあったベニヤなどの残材が将棋倒しに倒れてきたのである。Kさんの左足は残材の下敷きになってしまった。

専務が運転する車で、都立病院に向かった。車中で専務から「友人のSさんのうちの階段から転げ落ちたことにしてくれ」と言われた。痛みをこらえながら“こうして病院にも連れて行ってくれるのだから、後のことも相談に乗ってくれるのだろう”と思い「そうですか」とだけ答えた。即日入院・手術となったが、Kさんの足の回復経過は思いの外遅く、病身の妻と遠く離れた日々が続いた。父を気遣う長男が『何とか医療費等を補償してくれないか』と専務に話したがのりくらりとばかり。その後の再三の電話にも対応してくれなかった。Kさんがなんとか最終的に自宅療養となったのは年の暮れの12月28日だった。入院生活は総計3ヶ月近くにも及んだ。今年6月、足の痛みと経済的にも困っていたKさんを見かねて娘さんが東京センターに連絡してきた。早速調布のKさん宅を訪問しお話をうかがった。7月、江戸川署に申告とともに労災請求を行った。同署は逃げ回る元経営者を呼びだし調査した結果、形式上廃業したとはいえ、実体的にS社とKさんの間に雇用関係が成立していたと判断し、11月、業務上災害と認定した。「助かったあ!」—という電話の向こうのKさんの声は、安堵にあふれていた。(事務局・内田)